くまざさ

第32号
発行
釧路湖陵同窓会
くまざさ編集委員会
発行日
平成7年8月13日
印刷所
釧路綜合印刷KK

吉宗・湖陵・文武両道

湖陵同窓会長　久本　甫

本日は釧中・湖陵同窓会総会に多数お集り下さいまして有難うございます。今年は正月から色々といやな事が起こりました。阪神大震災、地下鉄サリン事件とオウム教の摘発、函館空港のハイジャック、七月の上信越地方の豪雨。天災は別としても人為的災害は、早くけりをつけないと、真似るバカが出ないともかぎらないです。いやな事ばかり続くなかで、大変嬉しい話題もありました。野茂の大リーグでの活躍です。野球に興味のない人々の間でも話題になる快挙です。それは丁度東京オリンピックで、オランダのヘーシンクが本場日本で柔道世界一になって一躍オランダの英雄になったことを思い出させます。スポーツでも学者の研究でも、日本と米国では個人の実力をのばす環境づくりには随分と違いを感じさせられます。

オウム教のご連中には一流大学とマスコミが称するところの理科系の出身者が多いようです。この連中は所謂専門バカで人間的、社会的にはすこぶる未熟であると云う事も察しがつきます。我が湖陵でも、同窓生や父兄が兎角、北大だの東大だのと受験生の事を騒ぎ立てます。東大にストレートで入ろうものなら新聞記事にまでなります（これは釧路が田舎のせいかも知れませんが）。人生長い目で見れば出て来た大学など一部の職種を除き、あまり関係はありません。ただし教祖には影響を受けそうで。

我が湖陵は文武両道、偏差値ばかりを気にする教育ではないようです。第八将軍吉宗の様な人物づくりも必要かも知れません。人には考えは色々ありますが。

六月に札幌湖陵会に出席して参りました。会場が昨年までのキャバレーエンペラーから話題のファクトリに移り、会費が五〇〇〇円から三五〇〇円と安くなった事もあってか、若年層の出席者が大幅に増えました。ややこしい総会の議事・報告・挨拶や祝辞は簡素化され、ビールを傾けての懇親を第一としたものでした。来年はどうなるか分かりませんが見事な変身です。

では釧路の総会も当番期に期待をよせて　ビールで乾杯！

校風の継承と発展

学校長　帰家（きや）雄治

去る四月一日付をもって、登別高校から本校第二十五代校長として赴任いたしました。歴史と伝統に輝く本校に勤務できますことは誠に光栄であるとともに、その責任の重さをひしひしと痛感いたしております。

湖陵高校が益々充実し発展するために、渾身の努力をいたしますので、久本会長さんをはじめ、同窓会の皆さんのお力添えと温かいご協力やご指導をお願い申しあげます。

人にはそれぞれ個性があり、地域にはその地方独特の郷土色があるように、学校には校風があります。いずれも、一朝一夕にできあがったものはなく、永い歴史と伝統を培いながら練りあげられた独特な重みや風格を備えているものと思います。

本校には創立以来一貫して継承されてきた自由闊達な校風があります。今学んでいる生徒達の体育文化活動が対外的に特色があり強いクラブや個人が多いのも、それを如実に示しております。

私に与えられた役割は、伝統ある校風を維持継承し、更に充実発展させることにあると考えております。将来必要となる創造性や柔軟な思考力、そして深い洞察力を持った不撓不屈の行動力等は、我が湖陵の校風が育んでくれるものと信じております。

昨今学校教育に求められている伸び伸びとした個性を有し、創造性豊かで、来るべき二十一世紀の国際社会に活躍する人材の育成は、自由で闊達な精神の基盤があってこそ達成できるものと思います。

さて、本校に学ぶ多くの生徒は大学等への進学を希望し、日夜学習に励んでおり、道内屈指の進学校として実績をあげている所です。ところが先日、同窓会の先輩の方から近年新聞に掲載される合格発表で湖陵は寂しいのではないかとのご叱声をいただきました。先輩の後輩に対する期待が大きいことに校長として身の引き締まる思いがしました。

生徒の進路目標実現のために、教職員一同全力をあげて取組み、従来の実績の上に、更に拡大と向上を図ることが学校経営の課題だと認識しております。

第九回札幌湖陵会の報告

湖陵十三期　佐々木　康二

■変身しました

平成七年札幌湖陵会定期総会は六月二三日金曜日の午後から開催されました。今回は新しい試みとして、青木商事様とも協議をした上で、札幌ファクトリー「ビアケラー」というビアホールでの開催となりました。今まで札幌湖陵会はスタート以来青木商事様の後押しと開催の労の大部分をおんぶして下さったこともあってキャバレーエンペラーでの開催を常としておりました。

昭和六二年の札幌湖陵会のスタート時においては四〇〇名を超える盛況でありましたが、この数年は三〇〇人を割り込む状態が続いており、その総会参加者低落の傾向は近い未来に二〇〇人以下となる様相になって参りました。

参加者名簿からいたしますと七五歳を越えた先輩のご参加の減少と、やはり全体の期にわたって参加者が減少しているようでした。

総会参加者増加のためには、若い世代の組込が必要との副会長佐藤清子さん（九期）の判断で若い世代でも楽しめる湖陵会の姿を模索いたしました。若い期を組み込むために、これまでは湖陵二五期までの組織でありましたが、今回は三五期までの組織を企画しました。湖陵十二期野上正子さん、同斎藤明世さん、副会長佐藤清子さんのご奮闘により名簿の整理、案内状の発送が行われ、その結果今まで参加のなかった二六期から三五期までで四〇名の新規参加がありました。総会が同期会結成の橋渡しになるという目的は大体達せられたと存じます。

また、新しい試みとしては、今までの土曜日四時の開催から、平日午後六時に開催日時を変更しました。会費も食事付生ビール飲み放題で三五〇〇円と低く設定しました。（までは五五〇〇円）

平日の午後六時開催は、週休二日制の勤務先が多くなって、休日の土曜日の午後にわざわざ行動を起こすのが面倒と言う人たちの声と、土曜の日中では勤務で出席ができない人でも勤務終了後に駆けつけることができるであろうとの考えです。幸い、申込者は三〇〇人を越える参加者となりました。

ただ、失敗もありまして、昨年の参加者二二〇名から推定して二四〇人程度と申込をしてあったのですが、大幅な参加者増加のためビアホールの席の構成上約四〇名が同室内でありながら少し離れた状態になりご来賓の挨拶も聞こえない状態になりました。難れた席にお座りの同窓生の中にはきついお小言を賜る方もおりました。また、沢山のコピーを一度に取ったものですからコピー機が故障して印刷物の量が確保できなかった、名札の配布方法などで混乱などもありました。その他にも多々落ち度がありましたが何はともあれ総会は終了いたしました。

閉会の後で私も先輩をお見送りいたしましたが、大方参加者の八〇％はご満足のようにお見受けしました。自画自賛ではいけませんので今後アンケートをとって確認したいと思っております。

また、今回のサッポロビアケラー開催での特徴は、「着席したらすぐ飲食開始」、集合時間は午後六時でしたが、五時三〇分から着席した会員にはどんどん飲んでいただきました。挨拶、会計報告などのセレモニーは最小限にいたしました。今回の試行の狙いはおいしい本場生ビールをたらふく飲んで、同期の人間といままでの人生と出来事を愉快に語り合っていただくことに主眼をおきました。

◎ビールを友として

私ごとですが、昨年、「サッポロビール友の会」という単純にビールを飲む以外に目的が何もない会に入会を許されました。このような会は札幌に沢山あるそうです。私が入会を許された会は、平成七年六月時点で月一回の例会がなんと五二二回の四三年間も連続して開催されており、毎月の例会も一五〇人から多いときでは二〇〇人近く集まります。

しかも、この例会に一度も欠席しないことを信念にしている会員もおり確か四〇年近い年月をただの一度も欠席しない会員もおります。その四〇年連続出席会員は病気入院の時は命がけで看護婦の目を盗んで病院を抜け出し、葬儀委員長を引き受けた時は葬儀会場から短時間エスケープし、月一回の例会には予定を設けないことを実行したように伺っております。

ビールの会に入って感心したことは儀式めいたことが殆どないことです。午後六時頃会場に五〇〇〇円の会費で集合し、着席してすぐ生ビールと食事、最初は席順も決まっているが、その後はビールジョッキを片手に会場内の知り合いと雑談、多少の儀式といえば時間の途中で新入会員の紹介と乾

杯があるだけ。会則としては人にビールを強いて勧めない、飲み残しをしない。自分の適量を飲んで自由解散。私はこの会に参加して、人間は楽しければ、何が何でも集まるもんだと思いました。そして制約が少ないことも楽しさの要素であると感じました。自分で多少の会費を負担し、交通費をかけて沢山の人間が集まりビールをのんで自由に会話する。大げさですが、平和と民主主義のモデルではないかと思うのです。古代ギリシャ市民の最盛期はこんな状態であったろうと思われるのです。やはり酒に何か強制的な儀式、権力的要素があってはつまらないことが多い。それが私の感想です。

■札幌湖陵会は多士済々

話しが脱線して取り留めのない文章になりましたが、今回札幌湖陵会の狙いもここにありました。その狙いを達成するには十分に準備されていなかったのかも知れません。また、釧路同窓会本部久本甫会長、十分な礼儀を尽すこともできませんでした。このような落度はありましたが、今回の第九回札幌湖陵会総会のあり方は実験としては及第点に近いのではないかと自己採点しております。

札幌湖陵会の今後のもう一つの課題とは、今後の一層の交流発展のために新しい血液を入れる。そのためには新しい事務局担当者によって札幌湖陵会の運営をする時期になったと思っております。停滞する水は必ず濁りができます。今回の試行総会の成果は新しい血液となった女性陣の成果を見れば保守的な自分に恥じ入ること多いものです。札幌湖陵会は多士済々でございます。そろそろ交代期に入ったと思います。

私個人のことになりますが、今年一〇月から銀行から億単位の借金をして新規分野のビジネスを始めます。来年は湖陵会総会準備に手が回らないように思います。それやこれやで今年の目標は新事務局担当者の募集です。この拙文を読まれた方々にもお心あたりがありましたら候補者のリストアップをぜひご支援を頂きたく存じます。

（勤務先
有限会社カトレア会館）

27会機関誌 "北陲"より

石川慶子（釧中二十七期）

想い出多い釧路でなつかしい皆様と、そして先生と又お逢い出来ます事を、今から楽しみに心待ち致して居ります。

三十五周年東京大会のあの感激を再び！と思って居ります。

東京二七会は、その後も男性も女性も会合の折は、和気藹藹です。此頃、皆年を重ねました為か男性が良く気を使って下さり会合の折には、それぞれ差入れ等とても暖かい集まりを重ねて居ります。その後の東京二七会の様子の一部を御伝え致しますね。

三十五周年の折りの出逢いを大切に……と皆が思って四年前から女性丈で、マドンナ会をスタートしました。一年に三回位集って、一人では仲々行けない様な処や珍らしいお食事などを戴いて一同でその都度満足しております。一泊温泉行きも日帰りでは味わえぬ楽しさでした。最近では「所沢」のおいも料理（さつまいも）や又、原宿でのお食事の後のムードあるヨーロピアンスタイルのお店でお茶を！と、いつも次回のお当番を決めて別れます。お当番は工夫のスケジュールで連絡をして下さいます。こ皆の頃は打ち溶けて、四年前には未だ若ぶって居りましたが、今は世相の事ね景気の悪い事も心配しますが、孫の話も自然に飛び出し良いお嬢さんとの付き合い方等、いつも優しく佳い「人」としての生き方も話題となります。時には励まされたり、ストレス発散の場ともなり、いつも来て良かったと思い乍ら別れます。嫌でも年を重ねて行く私達には、この会が増々深く、暖かく、皆の心の中に大切なものとして育っている様に思います。これからは一に健康、二に健康です。

未だ未だ続く人生の旅を出来る範囲でのチャレンジをし乍ら『生きている以上は』いつも夢を大切にして、より元気に明るくたのしく過ごして行き度いものと思っております。

私は近頃よく歩きます。

「花みずき、花びら拾う散歩道」

「サブウェイ、今日も階段よく歩き」

四十周年に参加させて戴く倖せを感謝致して居ります。

ありがとうございます。

（平成四年十月発行）

あたたかなふれあい
セオ
太陽のように
明るく暖かい真心で
良い品をより安く
ご奉仕する
セオチェーン

妹尾商店
新橋大通1丁目 ☎25－5345
新富士ストアー
新富士駅前 ☎51－3467
愛国ストアー
愛国西3丁目 ☎36－3399
白樺ストアー
白樺台1丁目 ☎91－5423
昭園ストアー
昭和北1丁目 ☎51－8853

さっぽろ地下街オーロラタウン
ギフトブティック
ペルソナ
オーロラプラザ前 ☎(011)241－3830

●味が自慢の本格派レストラン●
ステーキハウス アポロン
新橋大通1丁目妹尾商店向 ☎25－7023
営業時間／AM11:00～PM9:00

活躍する同窓生

湖陵２７期
堀　内　佳代子

■国際化の時代

現在、語学部門（C・I・E・英会話）、留学部門、洋書部門（ABCブックストア）を主な業務として釧路市内で、「釧路国際教育センター」を経営しております。2年前に釧路で開催されたラムサール条約会議には世界各国より多くの外国人が訪れ、地方都市釧路にも国際化の波が押し寄せた感がありました。8年前、センターを設立した時、釧路には目立った学校もなく、外国人を見かける機会も、教会の宣教師以外はほとんどなかったことを思えば、国際化社会は中央のみならず地方都市にも確実に波及しているのだという時代の推移をひしひしと感じます。

20年前、湖陵高校の校舎をあとにして、漠然とした目的で、英語の道を歩き始めました。東京での2年間の学業を終えたのち、大手の貿易会社に勤務し、その当時もやはり秘書業務として、英語との関わりはありましたが、自分自身明確な方向性を見い出したくアメリカ留学を決意しました。会社勤務の3年間、無我夢中で資金を貯め、マメリカへ渡ったわけですが、アメリカでの2年間が、今の自分の柱となっており、又私の人生の方向を定める大きな役割りを果たしてくれました。当時、大学留学は今程日常化はされておりませんでしたが、それでも東京に於いては情報を得ることは可能でした。

■ニューヨークで〝英語漬〟

広いアメリカの地図を毎日のように眺め、地所選び、学校選び等準備を重ね、アメリカへ向かったのでした。期待と不安が交錯していましたが、ニューヨークに降り立った時、〝かしら〟〝ヤルゾ〟というファイトが起こってきました。その後の2年間はまさに英語漬けの毎日でした。湖陵高校時代あまり学業に熱心でなかった私にとって、かつて経験したことのない勉強量でしたし又、自分がそこまでやれたのが不思議でした。もっとも貧乏留学生だったので勉強以外何も出来なかったというのが正直な所です。当時は日本人留学生があまりいなく、私の通っていた大学には私を含め2人しかいませんでした。この環境に私は今もって感謝せずにはいられません。なぜなら留学（あらゆる形態の留学を含める）があまりに一般的になった今日、日本人のいない学校を選ぶのは、少なくともアメリカに於いては、容易ではありません。まして大学留学ではない語学留学（英語のみを勉強するところで、高校卒業程度の学力であれば無試験で誰れでも入れる）に関しては、まさに日本人だらけという学校も珍らしくはありません。日本人はやはり外国に於いても集団化を好み、日本にいる時と何ら変わらない生活がそこにはあるという現実、〝外国に行けば何とかなる〟というのは願望にすぎず、現実ではないという認識が必要です。今まで長年に渡り、様々な形態の留学、又留学生の御世話をしてきましたが、どの時代においても言えることは〝何故外国へ行きたいか〟〝外国に行って何をするか〟という基本的な目的意識を明確にし、その気持ちを忘れないということです。その意識が土台にあれば、留学は決して遊学になることなし。外国に行くことで、外国文化や習慣そして価値観の相違など様々な事柄において視野を広めることが出来るし、又それ以上に祖国日本を客観的に見つめ直す良い機会となります。外国又は外国人を理解する事は同時に日本及び日本人を知ることにつながります。

■国際化の基本は〝ことば〟から

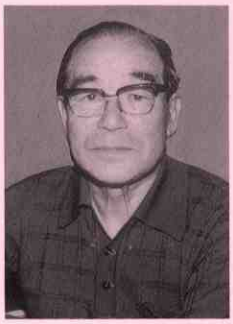
ふと釧路に目を移した時、学校教育の中でも、英語指導助手という立場で、外国人が直接、生徒達に英語を指導するカリキュラムも導入され、又行政に於いても、いついかなる時でも外国人に対応出来るよう、一般市民を対象に通訳ボランティア、ガイドボランティアの登録制度を設け、実際に英会話の養成講座を行なったりなど、国際社会に対応出来る基盤を整えようとする姿勢が見受けられます。今後、日本の将来を展望した場合、外国社会との関わりはますます多岐に渡って密接になるだろうし、それは釧路のような地方都市に於いても同じことが言えるかと思います。釧路という一都市にだけ目を向けるのではなく、世の中の流れ、そして世界の流れに目を向けた時、いろいろな国の人々とコミュニケーションを通じ、相互理解を深めたり、泣いたり、笑ったりと、学ぶものは多くあります。英語を話すということは、コミュニケーションを可能にする点で、最も基本的かつ重要な伝達手段であり、今後の国際化社会日本を考えた時、〝話せてあたり前〟の時代がもうそこまで来ているのではないでしょうか。今、そんな願いを込めて、毎日生徒に英語を教えています。生徒の英語の上達は教える側にとって最高の喜びです。そして、釧路市民のひとりでも多くの人が、よりグローバルなものの見方、考え方で外国人と接していけたらなと思っていますし、又そのきっかけを〝釧路国際教育センター〟という機関を通して釧路市民に与えられたらなという思いです。

奥田　達也（釧高1期）の

誠愛勇から

島森忠男の巻

（釧中13期）



〝就職難〟の文字を見るたびに、その世代の運命を思う。良いか悪いか。

私がようやく新聞社に就職できて〝大学は出たけれど〟を担当し、同級生の就職先を取材して廻ったっけ。私達は世界大恐慌の昭和五年の生まれであった。

その年に釧中を卒業したのが、釧路市内で活躍し〝花の13期〟と謳われる島森忠男、岩清水尚、小林正於、小甲幸一、梶原武、渡辺弥太郎、川合茂三郎、松田秀夫、松野政吉、古谷武一、藤井正亮、宮本三、山本久、豊井伝之介、植木義二、尾山乙彦、神政躬らである。

大不況で就職するにあてもない多難のスタートが、むしろ強靱な精神力を、強健な肉体を13回生に植えつけたのかもしれない……（「釧中物語」より）

その年も、私らも、今年も教職員を目ざす者が多い。

私が「湖陵高物語」を始め高校物語を企画するにあたり、教師と生徒の関係に強い関心を抱いた。社会にでて活躍する人の在学時の現況を話す。

それらをニコニコ笑顔で聞き乍ら釧路市内校へ初めてきて四年間教えた生徒達の大人の顔を見ている。母校の旭小校長を定年退職するまで教員生活四十四年の思いが去来したことであったろう。

小学校ばかりであった。小学生はネンド細工だ。教師の思うままに練り上がってくる。教育の恐ろしさもそこにある。軍国少年を育てた。幸いに戦死者はなくホッとしているが、旧制中学へ合否の判定となる内申書を書くのに、悩まざるを得なかった。筆記試験が無いだけに教師の区別、判断がもろに合否にあらわれる率が大きい。

生徒の人生を左右するのだ。

〝塞翁が馬〟ともあるように人生の道は多岐にわたる。一がいに合格したから良かった、落ちたから悪かった、とはいいきれない。

だが順当な方へ歩ませたいのは親も教師も心は同じだ。無難な道を歩ませたい。しかし順列はつけなければならない立場にあるのが教師であるのだ。卒業后のクラス会に招かれる度、万障繰合わせて出席する島森先生。

それは楽しくもあり恐ろしくもある。出世した環境の者ばかりが集まろうとも、屈辱感による努力もたらした成功かもしれない。

教師への恨み心とは別問題であるかもしれない。

みな晴れ晴れと集まり、感謝してくれる。その笑顔の裏の心までは読み取れない。

栄進して訪れる生徒の話は嬉しい。興奮し、昂ぶって語る気持がそのまま通じてくる。逆に没落した生徒の話には身を削られる思いをする。だが、退職后二十年を経た今も、全力を挙げて生きてきた教員生活に悔いはない。

自分が正しいと思った指導は周囲へのおもわくもなく実行してきた。天気の良い日は海辺に遊ばせ、休日には希望する生徒を山へ連れていった。愛情を注ぎ、誠意をもって接してきた。校長時代もその心をもって教師を管理したつもりだ。変遷の多い時代にも明治生まれの信念は変わらない。

旭小校長になったとき教え子の高橋一郎が校庭にイチイを寄贈してくれた。教師冥利とはこうしたものか、と思った。釧路にいれば昔の生徒が訪ねてくる。たった一人の一燈であったが、教師の一燈は拡がっていく。一隅だけでなく。

悔いのない教員生活

教師冥利なイチイの寄贈

御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

釧路パシフィックホテル

中村　隆（釧中27期）

釧路市栄町2丁目6番地　☎24-8811

れんが屋★AM11:00～PM11:00

トロイカ★AM 8:00～PM11:00

パシフィックイン・八まき・八宝園

学窓を巣立つ

湖陵47期

社会人になって

斉藤千夏

厳しい春が、私には何事もなく通り過ぎたように思えていましたが、今となっては、社会人としての責任の厳しさを誰よりも強く感じているのではないかと思います。就職を目前にして一番心配していた職場の人間関係には、思っていたよりもはるかに恵まれた環境で、思い切って仕事に取り組める反面、夢にも出てくる程、仕事の大変さを味わっています。全ての仕事に責任を持ち、正確かつ迅速な行動を身につけるということがあたり前だと思っていたはずなのに、自分が実践するとなるとこんなにも大変なことなのかと思い知らされる毎日です。自分のした事一つ一つが、全てにはね返ってくるのですから、少しくらい…という甘えは通用しません。まだ仕事を全て覚えたわけではなく、これからも次々と新しい仕事を覚えなくてはいけませんし、この先一人でやっていかなければならないという責任の重さに多少の不安がありますが、あせらずに少しずつ積み重ねて、できるだけ早く一人前の仕事ができるようがんばっていこうと思っています。

私が就職して良かったと思うことは三つあって、一つめにお金の大切さを学んだことです。金融機関に勤めているせいか、多額の現金を目前にしますし、お客様のお金を取り扱いますから一円の間違いも許されません。お金を取り扱うということがこれほど大変なことなのかと驚いてばかりいます。二つめには言葉の大切さを学んだことです。学生の頃とは全く違う先輩や上司と毎日話をしますし、電話で相手の顔を見ずに仕事の話をするわけですから、一つ一つの言葉には細心の注意をしなければいけません。自然と言葉使いが丁寧になったことはとてもうれしく思います。三つめには、仕事が忙しくても充実した毎日を送っていることです。人それぞれですが、私には進学よりも就職した方がいいと信じていましたので、自分の選んだ進路に間違いはなかったと確信できたことが一番の収穫ではなかったかと思います。

社会人としての責任というものはまだ少ししか理解できていませんが、無理をせず、毎日の生活を大切にして、自分なりに自分らしく努力していきたいと思います。

自分の道を信じて

相馬真人

教室で先生の授業を受け、黒板を写す毎日から一転して、デスクに向かい事務をするようになってから、早いものでもうすぐ四か月になろうとしています。少しずつ仕事にも馴れ、入った当時の不安は少しずつ消えてきました。

最も心配していた職場の雰囲気も想像とは全く違い、明るく楽しい雰囲気が漂っていて、ホッと一安心しました。

仕事や雰囲気に馴れ始め、気持ちが緩みがちになっている今、私は「気付かぬ粗相」が人一倍多いのに気付きました。相手にとても失敬な事をしているにもかかわらず、自分で全く気付いていない事がよくあり、後でこそっと注意される度に心臓が口から飛び出して裸踊りしてしまう位の衝撃を受けます。「丁寧語を覚えた方がいいよ。」と注意して頂く度にこの言葉が心に染み、直していこう、と心掛ける日々が続いています。温かい注意のおかげで、段々自分が良くなってきたような気がします。

朝は「おはようございます。」で始まり、退庁時には「お疲れさまでした。」で終わる社会生活。一番嬉しかった事は、今まで見向きもしなかった〝駅前の武富士の社員〟が、ティッシュを持って私に近付いてきて、「お仕事頑張って下さい。」と言ってティッシュを手渡してくれるようになった事です。私を社会人として一番最初に認めてくれたのが、親や友達ではなく、武富士の社員だったというから驚きです。私はこの感動が忘れられず、駅のホームを出ると、必ず武富士の社員を探してしまうのです。

街を歩いていると必ず出会う制服の学生。私は学生を見ると、もう二度と着る事の無い学生服や、楽しかった学生時代を思い出し、すごく似合わないけれど感慨にふけってしまう事がよくあります。時には「もう一度学生に戻りたい。」と思う事もあります。でも、職場の方が私に「おはよう。」と声を掛けてくれる度に、「私の選んだ道は間違っていなかった。」と思い直します。私は今、学生では味わえない、〝18歳の社会人〟としての幸せを満喫しています。自分の道を信じて、これからも笑顔で生きて行きたいと思っています。

当番期紹介

湖陵二十三期会会長　菊地　美恵子

昨年発行された第三十号「くまざさ」の中の奥田達也氏の寄稿文に、釧中第一ストライキの話が載っていました。

昭和七年、退職勧告をされた恩師を思う生徒が佐藤修一校長に抗してストに入り、厳島神社社務所内に立て籠った一件です。

なんとその恩師四名の内の一名は私の祖父、菊地安三でした。

二十年程度前、タクシーに乗り、行き先を告げた私をバックミラー越しに見つめ、運転手さんが、「ああ、厳島神社の娘さんですか。私もね、昔、釧中のストライキで神社の社務所に皆して立て籠ったことがあるんですよ。」と、懐かしげに話りかけられたことがありました。

祖父の顔も知らずに育った私は祖父を知っていてくれる人がいたことに何かしら心騒ぎ、急にその人を身近に感じ、車中の空気までもが濃密になったように感じたものでした。又、既に他界した父、（釧中二十八期）を知っていてくださる方にお目にかかり、「お父さんにそっくりですね。」などと云われ、励ましの言葉をかけていただくと、一人娘で縁続きの者が少ない私には百万の味方を得たようであり先輩のお心づかいが有難く、心暖まる思いをいたします。

似たような経験はどなたにもあるでしょう。

先輩、中川久平氏が、あの釧中ストライキの際に生徒父兄、校長に、「親が子を愛し、立派な人材として世に送り出すために命がけで養育するのと同じように、先輩が後輩を愛し、母校愛に目覚めさせ、ひいては釧路を愛し、郷土に文化を築いていく、そのための人材育成の場が、すなわち母校であります。」と、語られました。

先輩が後輩を思い、母校愛をもってして郷土を愛するという精神は今も尚脈々と生きづいています。

中川久平氏は更に次のように語ります。「愛する故郷に文化の花を咲かせねばならぬ。そのためには釧路を愛する人材を、この釧中に求めねばならぬ。すなわち次の世代の釧路を築くために確固たる故郷愛に目覚めた人材を、この釧中から送り出さねばならぬ、このことが我輩の一生を賭しての仕事であり、目的であります。」と。

私達は今、同期の報道写真家長倉洋海が更に大きく羽ばたくよう力を合わせています。故郷釧路を愛し、人間を慈しみ、世の深遠なるものを写し出す彼。

数年前、彼の写真展を釧路で開催し、成功を納めた祝賀会の席上私は、「暗く寒い山の上一晩を明かさなくてはならないという試練を受けた者が、その者を助けたいと願う者によって遠くの山上におこされた火を一晩中見つめながら夜を明かし、一命をとりとめたという話がありますが、まさに私達二十三期が長倉氏のその火になるよう、そして彼には常にその火は遠く釧路で燃え続けて

釧路のおみやげに！
しあわせをお菓子にのせて

姫手焼せんべい　熊ささ
サカエヤ
釧路市南大通2　☎代41-2121

いると信じて活動していって欲しい。」と述べたことがありました。

釧路を愛し、郷土に文化を築いていくためにも私達二十三期生、後輩と共に先輩の火を見つめ続けていきたいと思います。

我期は今年で七度目の同期会を迎え、そして同窓会では当番期として寄附金集めの役も担っていますが、釧路の主要経済関係、役所関係他多方面から、楡金達郎氏、石橋重雄氏、阿部信之氏、足立功一氏、中村幸裕氏、安孫子信司氏、更には聞名寺の進藤崇氏、日本伝統継承中の宝生流高橋秀一氏、札幌東京他、地方で活躍している面々、滝沢正志氏を始め、縁の下の力もちとなって協力してくれる男性、女性群のおかげで、若手当番期としては前代未聞の寄附金が計上されようとしています。これこそ釧中、湖陵に燦然たる母校愛ありという証左でもあります。

又、数年後の当番期を乗りきるためにも同期を結束させておこうと早くに行動をおこした石橋氏、松野裕一氏の先見の明のおかげとも云えるでしょう。

老いても尚、自由闊達な精神を宿し、母校愛、郷土愛、ひいては国を愛する人間が我が湖陵から輩出する事を信じ、今年度当番期を務めさせて頂きます。

讃え、釧中、湖陵の心意気。

訃報

釧中一期生 佐々木一雄大先輩逝く

大正二年開校した、釧路湖陵の前身、釧路中学校の第一期生（大正七年三月卒業）佐々木一雄氏が本年五月十日、横浜市内で、心筋梗塞で亡くなられました。享年九十八歳で、白寿の祝を前での逝去に、在校後輩一同心より哀悼の意を表します。

先輩佐々木さんは、釧中卒業後は、現山形大学の前身、米澤工専に進み、高級官吏の逓信省を経て、更に京都大学に進み理学博士号を取得し、母校山形大学、神奈川大学の教授などを歴任し、数多くの学生を育成なさいました。

釧中一期卒は、三十二人いたのですが、一期生の中で最後の存命者でありました。

通夜は過月十七日、告別式はその翌日、横浜市菊名の妙蓮寺で執り行われました。

茲に同窓生一同、あらためてお冥福をお祈り致します。

（上岡記）

事務局だより

釧路の地にもやっと夏らしい日々が訪ずれる今日此の頃ですが同窓会会員の皆様におかれましてはご健勝にて毎日ご活躍のこととご拝察申し上げます。

また常日頃から同窓会に対するご支援、ご協力を賜わり厚くお礼申し上げる次第でございます。

さて平成七年三月の十勝支部総会を皮切りに四月は東京支部、そして六月には札幌支部の総会とそれぞれ盛に開催されたところでございます。札幌会場に函館支部の同窓生が特別ゲストとして参加され近々是非函館支部を結成させたいとの決意表明がなされ万来の拍手を浴びたところであり我が親同窓会としても非常に心強く感じた所であります。このように我らが釧中、湖陵魂がひとつひとつ確実に他の地にひろがって行くことは実に素晴らしいことであると思われるところでございます。

この会報が皆様のお手許に渡るときは親同窓会の総会の日であります。本年は十三期、二十三期、三十三期の皆様が当番幹事であります。五月に打合せ会議を行ないその後それぞれの期が連絡を取りながら本同窓会総会の成功に向ってがんばっております。いつも思うことですが当番幹事期の皆様のご苦労には役員一同ただただ感謝の気持ちでいっぱいでございます。

ところで同窓会館の建設も北海道教育委員会のご理解のもといよいよ大詰めの段階を迎えるに致りました。これが許可を頂く段階で湖陵七期であり、道教委の企画管理部次長の蓮見様には大変お世話頂きこの紙面をお借りし厚くお礼を申し上げるものでございます。

しかしほんとうの意味での建設は許可がおりてから出発でございます。しかしなんと申しましてもこの大事業をなしとげるには同窓会会員皆様の絶大なるご支援・ご協力をなくしてとうてい完成を見ることは出来ません。どうかくれぐれもよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが同窓会会員の皆様のご健勝と、今後の益々のご活躍とご祈念申し上げ事務局からのたよりとさせて頂きます。

（関口記）

編集後記

くまざさ第三十二号が無事発行になりました。ご協力ありがとうございました。

今年は終戦五十年の年であります。厳島神社境内にあります。釧路護国神社で今年も戦没者追悼式並びに慰霊大祭が八月十五日に開催されます。

焦土と化した日本列島が平和をとり戻して五十年。国家、民族、宗教と個人とのせめぎあいのなかから、どのような時代が拓けてくるのか。

個人に弁証法あり、社会に弁証法なしとは、学生時代の美学の先生のことばであるが、真実は真実としても、ではどうしたらよいのかと自問することもある今日此の頃である。

（平野記）

くまざさ編集委員会

同窓会会長　久本　甫
同窓会幹事長　関口政司
編集委員長　上岡信明
編集委員　奥田達也
〃　〃　平野清次郎
〃　〃　石川和男